



第33号

2024 (令和6) 年
11月1日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 種村美樹

「朋友」とは、同信のなかま。
2008 (平成20) 年4月の仏教
壮年会連盟発足にあたり、
仏社会員が力を合わせ、とも
に歩みを進めていこうという
願いから名づけられました。

悲しみに寄り添う



仏教壮年会連盟講師 岐阜教区
高田 篤 敬

高田 篤 敬

明日ありと思う心の仇桜
夜半に嵐の吹かぬものは

これは、親鸞聖人が9歳の春、京
都の青蓮院で、お得度にのぞまれる
ときに詠まれたと伝えられている言
葉です。式をつとめられる慈鎮和尚
から、(おそらく夕刻を迎え時間が
遅かったため)日を改めるご提案を
され、そのお返事として詠まれたそ

うです。

「今日、満開の桜の花も、夜に嵐
がくれば明日にはもう見ることはで
きません」と、「明日をも知れぬいの
ちをどこに向かつて生きれば良いの
でしょうか、その答えを求めて私は
ここに参りました」という覚悟を、
この歌にこめて、比叡山にのぞまれ
た親鸞聖人でした。

この「明日をも知れぬ」私たちの

いのちを「無常」と表します。すべ
ての事柄は移り変わっていくもの、
はかないもの、無常をそのように表
現することもできます。でも、私
たちのいのちの無常とは「何故こん
なことが起こるのか」「どうして自
分だけ?」「とても受け入れること
はできない」「到底納得できない」こ
のような事が、「いつ」「どこであつ
ても」「誰の身にも」起こることがあ
る、このように受け止めることがで
きます。

今年の1月1日、能登半島を中心
に大きな地震が起こりました。今も、
多くの方々が悲しみの中で生活を送
られています。続いて九州・関東と
地震が相次ぎ、また現在でも多くの
人びとが悲しみ、苦しみの中に生活
しています。

2011 (平成23) 年の4月から、
本願寺では親鸞聖人750回大遠忌
法要が勤まりました。この年の3
月、東日本大震災が発生しました。
未曾有の大災害に、法要を予定通り
勤めるべきか、延期や中止も考えら
れましたが、「悲しみに寄り添う」と

いう思いから予定通り法要が厳修さ
れました。

以前、大きな災害に遭い、避難所・
仮設住宅での生活を経験された知人
から語られたのは「先の見えないと
いう不安」や「忘れ去られてしまう
恐怖」でした。「悲しみに寄り添う」
とは「いつまでも忘れない」という
ことです、とも教えてもらいました。
阿弥陀如来の慈悲は、私の苦しみ
を我が事として、いつも寄り添い、
共に歩もうとされるはたらきです。
「明日ありと」「無常のいのちを生き
る私に」「頑張れ」と声をかけるので
はなく、共に歩んでくださる尊い願
いです。



令和6年能登半島地震 評議員ボランティア研修を開催

復興への碑いしぶみ ～明日へ～ 継続は復興ちからなり

令和6年能登半島地震を受けて、被災地への継続的な支援の一環として、2024(令和6年)7月25日(木)～27日(土)の3日間の日程で、能登町の宗派寺院で片付け作業等のボランティア活動を行いました。本研修を通して、今後連盟として、また教区・組・寺院仏仕にできることを模索し継続的な支援につなげていきます。

令和6年能登半島地震

評議員ボランティア研修に参加して



研修委員会委員長 福井教区

夏目健之助なつめ けんすけ

令和6年能登半島地震及び9月に発生した大雨災害により犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

仏教壮年会連盟では、2024(令和6)年7月25日(木)～27日(土)に、本年度活動方針中、重点項目「災害に対する意識啓発を行い、被災地・被災者への継続的支援活動を実施する」に基づき、教区連盟における災害支援活動の展開及び意識啓発推進者養成を目的として、「令和6年能登半島地震 評議員ボランティア研修」を開催いたしました。

種村理事長の発案で開催したこの研修会は、各教区評議員の皆さんにお声かけをして、集まった9名



流入物を撤去する

が、金沢別院内に設置された「浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター」を通じて、被災地でボランティア活動を実践するというものでした。

初日の7月25日(木)は、夕方に支援センターに集まり、翌日からの



ミーティングの様子

ボランティア活動についてコーディネートの方と共にミーティングを行いました。私たちは、26日(金)、27日(土)と、「奥能登」と呼ばれる能登半島先端地域の能登町のお寺で支援活動を行うことになりました。

活動当日は、朝から支援センターに集合し、車で活動場所のお寺に向かいました。お寺は、地震と津波による被害を受け、海砂など様々なのが本堂や庫裏に流入してしましました。私たちは、これまでの支援活動を引き継いで、床下の流入物や海砂の撤去、災害ゴミの分別などを行いました。今回の研修会に申し込まれ、体調不良で不参加になった方からは、応援のメッセージをいただきました。

1日の作業を終えた後は支援セン

ターに戻ってミーティングを行い、今日一日の反省と翌日の活動を確認しました。

被災地に着くまでは、「災害が発生してから約8か月近く経っているのに復興が進んでいるだろう」と想像していたのですが、復興というにはほど遠い現状を目の当たりにして、支援活動の大切さを思い知らされました。

今回のボランティア研修を通して、各教区の仏壮会員の皆さんに現状を知っていただくとともに、今できる支援について、一緒に話し合っていただきたいと思いました。

日本全国いつでも、地震、台風、線状降水帯等によって災害が起きる可能性があります。

いつ起こるか分からない災害に



分別作業の様子

令和6年能登半島地震災害義援金

令和6年能登半島地震により被災された皆さまに
衷心よりお見舞い申し上げます。

受付口座番号

郵便振替 01000-4-69957

加入者名 たすけあい募金

銀行振込 銀行 ゆうちょ銀行

店名 一〇九(イチゼロキュウ)店

番号 当座 0069957

名義 たすけあい募金

※通信欄に「能登地震」とご記入ください。



詳細はこちらをご覧ください

よって、日々の生活で当たり前のことが、当たり前で無くなることにがいかに大変か。災害に備えるとともに、苦しい日々が変わってしまったときに寄り添って「困ったときはお互い様」と生きることの大切さを仏壮の多くの皆さんと共有し、息の長い支援活動に取り組んでいきたいと思っています。



搬出作業

あの日の記憶



仏教壮年会連盟講師 石川教区

谷間 徹誠

『令和6年能登半島地震』、これは今年の1月1日の午後4時10分、石川県の能登半島地域を震源として、日本海からの津波をとまなう、最大震度7の大災害でありました。

石川県だけでも340余人（関連死を含む）の尊いお命が犠牲となられ、福井・富山・新潟県にまで及ぶ、住宅・農・工商・漁業施設、寺院・社殿等の倒壊被害は目を覆う惨状となりました。8月半ばを過ぎた現在も、半島は海に突き出た馬の背のような地形のためか、復興・復旧は遅々として捗らない現状です。

石川でも、私がお預かりする光楽寺は京都に近い県南西部に当たる加賀市ですが、震度は5

強、揺れは相当のものでした。

建物の倒壊や大きな損壊は免れましたが、当時の私は12月初めに金沢の病院で腰椎部の手術を受け、歳末29日に退院して、腰を庇いながらどうにか本堂・内陣のお正月飾りをお世話方の手を借りて、2日掛かりで整えたところでした。

いよいよ明けて正月。除夜から本堂にはストーブ、内陣には赤ローソク、暖とお光りを絶やす事なく、朝の元旦修正会も勤まり、夕刻までのお年始参りが一段落したときの大地震！私は動けず、坊守がよろめきながら本堂へ、とにかくにも火を消しに。揺れが止んだ時、ただ訳もなくお念仏が出てくさっていました。南無阿弥陀仏

第25回 全国仏教壮年岐阜大会 開催期日決定

第25回全国仏教壮年岐阜大会を、ご門主様ご臨席のもと2026(令和8)年9月5日(土)に開催する予定です。詳細は決まり次第順次ご連絡させていただきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

教材委員会からのお知らせ

「朋友ミニのぼり」を作りました！

教材販売の際の目印に、卓上に置いて使える「朋友ミニのぼり」を作りました。各教区教務所に配布しておりますので、組の行事等で貸し出しを希望される場合は、所属教区(特区)の仏教壮年会連盟事務局までお問い合わせください。



申込用紙と一緒に
のぼりを置いて
目立たせよう

委託販売可能な教材



会員証(バッジ)
¥2,000(税込)



おみのり帳
¥100(税込)



『朋友』改訂版
¥1,320(税込)



仏教壮年会連盟会員式章入れ
¥2,200(税込)

問い合わせ先 仏教壮年会連盟事務局

問い合わせ先 本願寺出版社

仏教壮年会連盟会員式章 価格改定について

材料費の高騰により、2024年9月1日より1領3,850円(本体価格3,500円+税)に価格改定いたしました。※旧価格:3,190円(本体価格2,900円+税)何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

販売元: 本願寺出版社



新規単位登録名簿

2024(令和6)年3月1日〜2024(令和6)年10月31日

教区	組名	寺院	単位会名
安芸	沼田	明休寺	明休寺仏教壮年会
滋賀	蒲生下	願通寺	願通寺仏教青壮年会
安芸	佐伯奥	専立寺	専立寺仏教壮年会

登録単位数 2、365単位

『大乘』の「仏教壮年の声」コーナーを ご存知ですか？

浄土真宗のみ教えを伝える月刊誌『大乘』に、全国各地の仏教壮年活動を紹介する「仏教壮年の声」コーナー(不定期掲載)があります。ぜひ『大乘』をご購読いただき、教区・組・寺院での仏教活動の参考にしてください。お問い合わせ先: 本願寺出版社(TEL 0120-464-583) 仏教壮年会連盟ホームページにも「仏教壮年の声」コーナーがありますので、ぜひこちらもご覧ください。

『大乘』
「仏教壮年の声」
コーナー
サンプルページ



2024(令和6)年度中央研修会 参加者募集について

目的: 宗門の「御同朋の社会をめざす運動」の理解を深め、仏教壮年としての意識の高揚と自覚を深めるとともに、仏教壮年会活動の推進者を養成することを目的とする

開催日: 2025(令和7)年2月15日(土)〜16日(日)

会場: 本願寺伝道本部 宿泊: 聞法会館

募集対象: 各教区2名(各教区2名)

※65歳以下の方が望ましい。

※評議員・教区(特区)連盟理事長及び既参加者は除く

申込締切: 2025(令和7)年1月15日(各教務所宛)

日程・参加費等、詳細は教区仏教壮年会連盟事務局宛にお尋ねください。

